

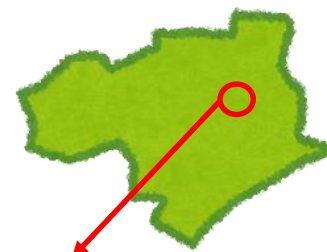
取組の概要

取組の概要 : 果樹産地の競争力強化
 計画策定主体 : 佐那河内村農業再生協議会・徳島市農業再生協議会
 対象品目 : 果樹 (みかん・すだち・キウイフルーツ)
 主な取組主体 : 徳島市農業協同組合
 成果目標 : 集出荷コストの10%以上の削減
 助成金の活用 : 整備事業(集出荷貯蔵施設等再編利用)状況

ポイント

- 既存の3施設を集約再編することで、施設の利用率の向上や集出荷コストの低減を図るとともに、共同選果による出荷作業の分業化により農業者の労力負担を軽減することで産地の収益の向上につなげる。
- 出荷物の一元管理により、品質の統一や周年供給による安定出荷など販売力の強化が図られる。

地区の概要



徳島県
佐那河内村・徳島市地区

産地の現状と目標

〈現状：平成27年度〉

作付面積	みかん	28.8ha
	すだち	37.4ha
	キウイフルーツ	6.6ha
	計	72.8ha

集出荷コスト：66,134千円

〈目標：平成30年度〉

作付面積	みかん	26.7ha
	すだち	41.9ha
	キウイフルーツ	7.1ha
	計	75.8ha

集出荷コスト：49,262千円



推進体制

地域の関係者（佐那河内村、徳島市、徳島市農業協同組合、徳島農業支援センター、農業関係者等）が一体となって事業推進。

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 業務需要に対応した包装資材の簡素化により新規需要開拓を推進。
- 各種イベントでの消費宣伝、果樹オーナー制度等、消費者へのPRによる認知度を向上。
- JA営農センターを設置し、営農指導を強化し栽培技術や品質を向上。

事業効果

- 集出荷場を集約再編することで、品質向上やコスト低減、分業化による省力化が可能となり、競争力のある集出荷体制が整備され、産地の維持や収益の向上が期待される。

～集出荷施設の集出荷コスト～

